

1

株式会社 J V C ケンウッド

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● 当社は、サステナビリティ推進活動における優先的な重要課題（マテリアリティ）の一つとして、深刻化する気候変動への対応を行ってまいります。● 環境に配慮した企業経営を進めるため、当社環境基本方針に従って、温室効果ガスの排出量全体を把握し、優先して削減すべきカテゴリを特定することを目的とします。
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● WEBサイト等にて、非財務情報の一つとして算定結果を開示します。● サプライチェーン上の取引先／関係者との、環境活動における連携を強化します。
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● 優先的に削減すべきカテゴリを特定し、排出削減すべき活動を明らかにできます。● 社内外に環境活動に取り組む姿勢を示し、排出量削減に向けた活動意識の共有ができます。● 外部からのスコープ3に関する問い合わせや、各種企業調査への回答に使用することができます。
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● 本社・サステナビリティ推進室が中心となり、当社環境基本方針の適用範囲に従い、関連部署よりデータを収集して、算定を行っております。

2

株式会社 J V C ケンウッド

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン排出量の削減に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ● 部品点数の削減や生産地域の現地調達化により、原材料調達時の温室効果ガス排出量削減活動の「見える化」に取り組みます。 ● 製品出荷時の、物流による排出量の削減に取り組みます。 ● 省電力製品の開発等により、製品使用時の排出量低減を目指します。
⑥ サプライチェーン排出量算定の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 今回の算定の組織的範囲について、海外は生産拠点のみを対象としております。当社は、サプライチェーン排出量削減の取り組みを更に深化させるため、グループ内のより多くの組織を算定対象にすることを目標に、活動してまいります。 ● 各カテゴリーのデータについて、より直接的な活動量の使用を増やし、精度の向上を目指します。 ● 特に、カテゴリー1における排出量計算方法、およびカテゴリー11における製品の消費電力と想定使用時間の計算方法が課題となっています。
⑦ その他 (任意)	<ul style="list-style-type: none"> ● このマークは、当社が推進する「JKサステナビリティ」のシンボルマークです。 ● 当社は、“感動と安心を世界の人々へ”を企業ビジョンとして掲げ、「顧客価値創造企業」として、持続型社会の実現に貢献してまいります。



JK Sustainability

3

株式会社 J V C ケンウッド

カテゴリ	算定方法	※算定対象期間：2019年4月～2020年3月	
	活動量	原単位	
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料購入金額データ	● SC-DB [5]産業連関表ベース排出原単位	
カテゴリ2「資本財」	● 固定資産データ	● SC-DB [6]資本財価格当たり排出原単位	
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● 電力、ガス、熱使用量データ	● SC-DB [7]電力・熱使用量当たり排出原単位	
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 製品出荷量データ	● SC-DB [2]温対法算定・報告・公表制度における【輸送】に関する排出係数③トンキロ法	
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物量データ	● SC-DB [9]廃棄物種類別排出原単位	
カテゴリ6「出張」	● 従業員人数データ	● SC-DB [13]従業員当たり排出原単位	
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 従業員人数データ	● SC-DB [14]従業員人数：勤務日数当たり排出原単位	
カテゴリ8「リース資産（上流）」	【算定除外】当社スコープ1、2として算定済みのため除外	-	
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	【算定除外】製品出荷輸送は自社荷主ため、カテゴリ4に計上済みのため除外	-	
カテゴリ10「販売した製品の加工」	【算定除外】半製品出荷量が極めて小さいため除外	-	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 製品出荷量データ ● 製品消費電力・使用時間データ	● SC-DB [1]温対法算定・報告・公表制度における排出係数	
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 製品出荷量データ ● 製品重量データ	● SC-DB [9]廃棄物種類別排出原単位	
カテゴリ13「リース資産（下流）」	【算定除外】該当するリース資産が無いため除外	-	
カテゴリ14「フランチャイズ」	【算定除外】フランチャイズによる事業が無いため除外	-	
カテゴリ15「投資」	【算定除外】投資による影響が極めて小さいと考えられるため除外	-	

4

株式会社 J V C ケンウッド

サプライチェーン排出量算定結果

【2019年度】 温室効果ガス発生量 (650,548 t-CO₂e)

